

## 感染防止と自粛でプラ容器の需要急増

### ◆新型コロナで使い捨てプラ容器の需要急増

経済産業省と環境省は、2020年5月12日、プラスチック資源循環戦略の具体的な施策を検討する第1回の合同会議をウェブ会議形式で開催した。使い捨て容器の削減やリサイクル促進、植物を原料とするバイオ素材の利用拡大などの具体策を検討する。使い捨てプラスチック削減にいよいよ本腰を入れて動き出そうとしている矢先、いま新型コロナの世界的な感染拡大により状況が激変している。

感染防止の観点から、スーパーなどでは、むき出しで商品を並べるわけにいかず、あらかじめフィルムやパックで、総菜や焼きたてパンなどを個別包装して売るケースが増えている。また店内での営業が困難な飲食店では、プラ容器に入れたテイクアウトやデリバリー向け商品を提供するところも増えている。国内シェアで約3割を占める福山市の食品容器メーカー、エフピコは20年3月のグループ全体の容器出荷数が前年同月から6.7%も増えたという。

### ◆リターナブル容器や紙製容器による取組みも

こうした事態に、自治体や包装材メーカー以外の企業の取組みも出始めている。SDGsに取り組む真庭市は、テイクアウトを取り入れた市内の飲食店などを対象に、再利用可能なメラミン樹脂製容器の無償貸し出しを始めた。容器を回収して再利用するリターナブル方式だ。容器は軽量で割れにくく、食洗器での洗浄も可能だ。

また福井市の老舗洋食店を運営する「あまから」はプラ容器やレジ袋を使わず、複数の料理をまとめて持ち運べる使い捨ての紙製梱包材を開発、特許を取得した。当初はレジ袋が有料化される今年7月の発売を予定していたが、外食自粛でテイクアウトが広がったため、5月下旬から発売を開始し、大手からの受注を確保することで生産コストを下げ、小規模の飲食店にも広げていく方針だ。

環境への配慮から、いままではできるだけ包装やパッケージは排除する方向で進んでいたが、新型コロナの影響で、当分の間は個別包装やパッケージへのニーズは続くと思われる。感染拡大を防ぐ「安全性」と「環境配慮」を両立させるために、リサイクルの仕組みや容器の素材開発が急務となる。 【秋元真理子】